

北海道に貢献する意欲のある若者の海外挑戦を、官民一体で応援する「ほっかいどう未来チャレンジ基金」の旬な情報をお届けします！3月末時点で、第2期生は1名が帰国し、8名が海外留学中です！

第3期生の募集を開始します

4月1日から、ほっかいどう未来チャレンジ基金第3期生の募集を開始します。詳細は、ホームページをご覧ください。

主な応募要件

- 4月1日現在で、18～39歳の方（学生留学コースは30歳まで）
- 道内の市町村に住民登録がある方
（学生留学コースの場合、道内の大学等に在籍している方）
- 留学先における受け入れ機関が確保できる方
- 帰国後3年間は北海道に居住できる方（学生留学コースを除く）

主な支援内容

- 滞在費（定額）：12 or 16万円/月
（派遣先地域により変動）
- 往復渡航費（定額）：10 or 20万円
（派遣先地域により変動）
- 授業料、研修費等：上限30万円

選考スケジュール

- 面接一次審査：5月9日（学生留学）、14日（文化芸術）、15日（未来の匠）、17日（スポーツ）
- 面接二次審査：5月23日（学生留学）、28日（その他3コース）

応募期限

- 学生留学コース：4月上旬～中旬（所属大学等により異なります）
- その他3コース：4月25日

第1期生の齊藤さんがスポーツクラブを設立しました

北海道に障がい者スポーツの拠点をつくるという夢の実現に向け、アメリカに障がい者スポーツの指導方法や運営マネジメントを学びに渡航した、スポーツコース第1期生の齊藤雄大さんが、障がい者スポーツクラブ「HOKKAIDO ADAPTIVE SPORTS」（一般社団法人）を設立し、記者発表を行いました。

このクラブは、まだ競技人口の少ない障がい者スポーツ界において、1つのクラブで複数種目のチーム、スポーツスクールを実践すること、ジュニア育成に取り組むこと、健常者の方も一緒に参加できることが大きな特徴となっています。



記者発表中の齊藤さん

寄附目録の贈呈式を行いました

3月27日、アサヒビール(株)、イオン北海道(株)、マックスバリュ北海道(株)から、寄附目録をいただきました。アサヒビール(株)は、昨年11月から3か月間、北海道限定「ブラックニッカ ハイボール 香る夜」の販売本数1本につき1円をみらチャレ基金に寄附する取組を実施していただきました。

また、イオン北海道(株)、マックスバリュ北海道(株)は、平成30年12月17日から約1か月間、道内の「イオン」「マックスバリュ」などの各店舗・事務所において、「ほっかいどう未来チャレンジ応援募金」を実施していただきました。

贈呈式には、スポーツコース第1期生の廣田修平さんも出席し、ご支援へのお礼を述べました。



社会貢献の活動を通じた寄附の取組がスタートします！

2019年6月から8月まで、アサヒビール(株)の北海道限定「ブラックニッカ ハイボール 香る夜」の販売と連動した基金への寄附の取組がスタートします。2018年度にも2回実施した同取組の第3弾となり、今回も販売1本につき1円を基金のスポーツコースにご寄附いただきます。



学生留学コース

第2期生 伊藤 昂 さん アメリカ、オランダ、オーストラリア ～スポーツビジネスを学び、北海道のテニス界の国際化に貢献～

テニスの国際大会が開催されるアメリカ、オーストラリア、オランダの3か国に、10月から10か月間留学中。

2月から2カ所目の留学先のアメリカに渡航し、IMG ACADEMYでコーチング方法の勉強と、国際大会のボランティアに参加しました。アカデミーでの練習方法は日本と大きく変わりませんが、練習時間が短く集中力がなくなる前に終わらせる点が特徴的でした。また、大会の会場は風が強いため、コートへのフェンスに風除けを設置するなど、コートの立地環境に応じた設備が整えられていました。



第2期生 立岩 文武 さん オーストラリア（タスマニア）～大規模農業の手法を学び、北海道農業の持続を目指す～

大規模農業が進んだオーストラリアタスマニア州に、9月から10か月間留学中。

10月後半に植えたかぼちゃもだいぶ成熟して収穫目前となりました。オーストラリアのかぼちゃを輸出するとなると隣国のNZ産との差別化が課題になりますが、オーガニックのものを栽培することで付加価値をつける手法が良いと考えています。タスマニアのかぼちゃに適した土壌や病虫害の少ない気候は栽培にあまり手間がかからず、生産コストを抑えることができます。また、2月上旬で研修を終え、中旬から交換留学生としてタスマニア大学での勉強が始まりました。



第2期生 林 泰佑 さん フィンランド (エスポー) ～木造建築技術を学び、海外との架け橋となる建築家を目指す～

森林環境が北海道と似たフィンランドで、9月から1年間、アアルト大学のウッドプログラムを受講。

ウッドプログラムでは、なるべくみんなが納得する形でデザインを決定します。多大な時間と労力が必要ですが、メンバーは対等な関係でアイデアを評価し合い、良いアイデアは取り入れられていきます。この環境で、自分が属する組織に対する貢献を常に考え、自発的に行動するようになったのは大きな成長であると感じています。



第2期生 星野 愛花里さん キルギス (ビシュケク) ～種子生産やその輸出入を学び、北海道農業との連携を目指す～

種子ビジネスの発展が期待されるキルギスに、12月から1年間留学中。

日本では、農産物の生産量や品質が不確実な場合、まずは国内販売先に相談し、次に輸出の選択肢が出るように思いますが、キルギスでは、市場規模の小ささ、競合する輸入品の存在等から、まず海外に販路を求めるところがあります。しかし、輸出は各地域ごとにある組織が行っているため、国全体の輸出量は未だ把握できていません。



スポーツコース

第2期生 梅村 拓未さん ドイツ (ハイデルベルク)

～バルシューレを学び、子どもの運動課題を解決～

バルシューレの創設元ハイデルベルク大学で、7月から11か月間研修中。

日本の多くのスポーツ現場では、指導者一人が担当する子どもの数が多く、運動能力の高い子と低い子を同時に指導する場面があるため、ドイツの指導方法を活用すると工夫が必要になります。ドイツでも、学校のバルシューレの授業は多人数を指導するため、子ども間の能力差が見られますが、そのような場合の対応方法についても研究がされており、書籍も出版されています。



文化芸術コース

第2期生 鴻野 祐さん フィンランド (エスポーほか)

～「木」を深く学び、デザイナーとしてまちづくりに貢献～

森林環境が北海道と似たフィンランドで、7月から1年間、現地リサーチとアアルト大学のウッドプログラムを受講。

先月実施したリサーチを踏まえ、指定された木構造を利用した大型木造建築のデザインに取り組みました。私はCavity wallという、日本でいう木造パネル工法を利用し、空間のレイアウト、建築方法、構造のディテールを考えプレゼンしました。この課題を通して、フィンランドにおける断熱に対する意識について、建築の構造から感じ取ることができ、北海道でも活用できる知見を得ることができました。



未来の匠コース

第2期生 今村 直史さん ニューージーランド (マルボロ)

～ブドウの栽培技術を磨き、北海道を一大ワイン産地に～

ワイン用ブドウを栽培する現地ワイナリーで、11月から5か月間、北海道で未確立の栽培技術を修得中。

ワイナリー巡りをして企業や地域内のさまざまな「運動性」を強く感じました。ワイナリー間を周遊する交通網、宿泊施設、飲食店等が、ワインを触媒として連携し観光産業を盛り上げています。今後、北海道でもワインツーリズムが盛んになると思いますが、施設整備は費用が大きい上、産業規模も全く違いますので、一朝一夕でニューージーランドのようにはなれません。地域全体の「運動性」を強化するソフト面の取組や情報発信の手段は見習うべきものがありました。



第2期生 服部 大地さん イタリア (トスカーナ)

～地産地消の調理法を学び、北海道の食の魅力を深化～

スローフード発祥の地イタリアの料理学校やレストランで、9月から6か月間、地域資源を活かした調理法を修得中。

トスカーナはジビエ料理が有名で、兔、猪がよく食されています。レストランでは、ジビエを使った太麺パスタの煮込み料理などが提供されていました。臭みが全く無く、その調理方法をオーナーに尋ねたところ、地元で採れた複数の香辛料を使い赤ワインで十分煮込むなど、地元のもの上手く使いつつ調理をしているとのことでした。帰国後は、トスカーナのジビエ料理のように、地元の食材を利用した新しい料理に取り組みたいと考えています。



応援パートナーの皆様

(平成31年3月現在・敬称略)

有末 真哉 石川 諭史 遠藤 光二 小黒 敬三 佐藤 友昭 (税理士法人FULL SUPPORT 代表社員税理士) 鈴木 伸明 武田 孝 (拓殖工業(株)代表取締役会長)
船津 秀樹 その他匿名希望の個人・企業4者

北海道総合政策部政策局総合教育推進室

TEL : 011-206-7380 (直通) FAX : 011-232-6313

E-mail : mirai.jinzai@pref.hokkaido.lg.jp

ホームページ : <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/sky/mirai-jinzai.htm>



助成対象者のチャレンジ風景をお届けします。

